

東北次世代がんプロ養成プラン セミナー実施報告書

(セミナー名称)	
東北大学大学院医学系研究科がん看護学分野主催 10月がん看護勉強会	
事例報告者：千葉 詩織	
所属：東北大学大学院がん看護学分野	
テーマ：ゲノム医療と倫理・社会的問題からこれからのゲノム看護を考察する	
担当者氏名：佐藤 富美子 教授	所属：東北大学大学院がん看護学分野
内線：7926	Email: fsato@med.tohoku.ac.jp
1. 実施年月日：	
平成 30年 10月 29日	
2. 開催場所：	
東北大学医学部保健学科D棟 217号室 がん看護学分野カンファレンス室	
3. 関連分野：	
ゲノム医療、遺伝子検査、がんゲノム、がん看護	
4. 対象者：	
がん看護に興味関心のある医療関係者・大学教員・東北大学大学院医学系研究科保健学専攻学生・東北大学医学部保健学科学生	
5. 参加人数：(お分かりの範囲で内訳をお知らせください。教員、学生など)	
大学教員 3名、大学院生 3名、医療関係者 1名 (がん診療連携拠点病院がん看護専門看護師 1名) 計 7名	
6. 成果：	
<p>現在のがんゲノム医療に関する社会的動向について報告があり、がんゲノムに求められる看護のあり方について参加者とディスカッションをおこなった。</p> <p>現在の日本は、第3期がん対策基本計画によりゲノム医療が明記され、全国 11 施設においてがんゲノム医療中核拠点病院が設置された。がんゲノム医療に関する治療及び研究が推進され、体細胞性遺伝子変異及び生殖細胞遺伝子変異による遺伝子系列に基づいた治療及び予防である個別化医療へとシフトしていく。このような現状を踏まえ、今後がんゲノムに関する看護はどのような職種が担うのかに関するディスカッションや、臨床において患者家族に起こった遺伝子検査に関する葛藤事例の報告が行われた。</p> <p>成果は、今後は遺伝子検査を受ける患者家族や遺伝性腫瘍の事例を収集し、患者家族や医療者が検査や疾患に関する認識を明らかにする必要がある。さらにどのようなフォローアップや看護支援が必要なのかを検討し、病院内の診療体制や行政間のネットワークを整備していく課題を共有した。</p>	

【当日の会場の様子などの写真がございましたら、添付ください】